

【活動報告】

カンボジアでの活動

1. コサマック病院での医療活動
2. Jeremire's Hopeでの医療活動
3. 医療養成校での教育活動
4. カンボジア脳神経外科学会外科学会にて講演実施
5. スタディツアー催行
6. 医療品の寄贈

日本での活動

1. イベント開催
2. グローバルフェスタへの参加
3. 理事長北原による講演活動

カンボジアでの活動

1. カンボジア国立コサマック病院での活動

【病院概要】

1950年に地元の僧侶のための病院として設立された、プノンペン市内の国立病院のひとつです。総病床数は200床で、標榜科目は一般内科、脳神経外科、眼科、耳鼻咽喉科、消化器科、泌尿器科、小児内科、小児外科、産婦人科、呼吸器科、悪性腫瘍、精神科、皮膚科、感染症、糖尿病で、ICU、救急病棟を備えています。患者は比較的低所得層の占める割合が多い状態です。資金不足から物資と設備・機器のメンテナンスが慢性的に不足しているせいもあり、国立病院のなかでは最も設備の老朽化が著しい病院です。

【JMDOの活動の背景と目的】

カンボジアでは未だ脳神経外科領域の手術をおこなうための人材面・設備面双方の環境が未熟です。また、脳神経外科処置後の術後管理に関するノウハウや経験が存在しないため、脳神経外科において非常に重要な「手術・術後管理・リハビリの一貫した医療サービス」を提供するキャパシティを持つ医療機関が存在しない状態です。当団体は現地で手術・術後管理・リハビリまでの包括的な処置を行い、それらの方法を現地医療従事者に実地教育することで、日本式の医療を現地に普及・定着させると共に、将来的にはカンボジア人自身によって運営される、高品質な医療機関・医療システムを確立することを目指します。そのために、国立コサマック病院と活動提携契約を締結し、同院内にて脳神経外科設備の充実、スタッフや実習にくる学生の教育、リハビリの実施などを進め、モデル病院として機能できるようになることを視野に入れて活動しています。

【派遣スタッフ】

医師、看護師、理学療法士(リハビリスタッフ)

【活動内容】

- 1) カンボジア人看護師の指導者育成(リーダーナース養成プロジェクト)
- 2) リハビリテーション提供のシステム作り(リハビリ環境改善プロジェクト)
- 3) 感染症対策委員会の設立と実働に向けたサポート
- 4) 現地での長期ボランティア受け入れ実施

- 5) 看護学生への指導
- 6) 医療品の寄贈

1) カンボジア人看護師の指導者育成（リーダーナース養成プロジェクト）

2014年4月より、カンボジア人の既卒看護師向けの教育プロジェクトを開始いたしました。昨年度は1期生（4月開始）、2期生（7月開始）の指導を行い、1期、2期ともに2名、計4名の卒業者を輩出しました。目的はカンボジア人看護師たちが教育制度や職場環境の問題から学ぶことが難しい、看護師の役割や業務を理解すること、不足している知識や技術を再学習させ、それらを駆使して、将来、カンボジア人看護師のリーダーとなるようなリーダーシップのとれる看護師を育成することです。

本プログラムでは、最初の1ヶ月間は「基礎看護」についてのレクチャーを、その後、コサマック病院での臨床実習を通してケーススタディを行いました。

私たちが介入している国立コサマック病院では、血や尿で汚れたシーツをそのまま使用していたり、棚がないため患者さんやご家族の荷物が汚れた床の上に置かれていたり、日本の病院では考えられない劣悪な環境が見られます。またスタッフに対して必要な教育がなされておらず、患者さんに適切な介入が出来ていません。病院ではそのような状況が慣習化されている事もあり、その鉦巨について問題意識を持つ者もいませんでした。リーダーナース養成プロジェクトでは、自分たちで問題に気づき、解決策を立て実施する過程を臨床実習を通して学べるカリキュラムとし行いました。患者さんへの介入はもちろん、病院の衛生環境への介入や、病院スタッフや学生への教育方法などカンボジア人看護師のリーダーとなるために必要になる能力の基礎を取り入れました。



リーダーナース臨床実習



環境整備前後の比較

2) リハビリテーション提供のシステム作り（リハビリ環境改善プロジェクト）

2014年12月より、コサマック病院脳外科病棟にてリハビリテーション提供のシステム作りを開始しました。目的はコサマック病院の医療者たちが自分たちの手でリハビリテーションを提供できるようになることです。これまでもコサマック病院の脳外科病棟に介入してきたことで、病院スタッフはリハビリテーションの重要性は認識してくれるようになりましたが、現在もNGOの助けなしでは、患者さんは適切なリハビリを受けることはできません。その原因は、部署や病棟間の連携・信頼不足でした。

コサマック病院にもリハビリテーション科にあたる部署は存在しますが、脳外科病棟の医師たちは、カンボジア人リハビリスタッフを信頼していないため、リハビリテーション科にオーダーを出していませんでした。私たちは、コサマック病院のリハビリスタッフへ脳外科病棟患者のリハビリテーションについての教育を行いました。まずは座学で必要な知識を学ばせ、臨床をとおして実際の臨床能力を育成しました。カンボジア人リハビリスタッフがリハビリをして、患者さんがよくなるのが見えるようになると脳外科病棟の医師もカンボジア人リハビリスタッフを少しずつ信頼してくれるようになり、リハビリテーション科にオーダーしてくれるようになりました。リハビリスタッフへのオーダーが病棟に新たなシステムとして導入され、今では毎日、朝の病棟回診にリハビリスタッフが参加し、オーダーされた患者さんにリハビリを行うようになっています。





病院スタッフへの臨床をとおしての指導

3) 感染症対策委員会の設立と実働に向けたサポート

徳島大学大学院生の井上琢斗さんより、国立コサマック病院での衛生管理や意識の向上支援を行いたいと申し入れがあり、現地インターン生として受け入れを行いました。国立コサマック病院には感染症対策委員会を含むいくつかの委員会は存在しますが実働しておりません。井上君には感染症対策委員会の一メンバーとなり、コサマック病院院長や他委員と共に院内衛生環境向上に向けた取り組みを実施しました。病棟環境のチェックリスト作成やその評価システムの構築等にも関わりましたが、特に職員の手指衛生への意識改革に力を入れ活動を行いました。サラヤ株式会社様より手指消毒剤170Lをご寄贈頂き、そちらを使用してWHO推奨の方法や頻度、タイミングなどのレクチャーを毎月実施し、病棟毎に手指消毒遵守率のモニタリングを行っています。当初は手指消毒の適切なタイミングや頻度が守れていない職員が多くおりましたが、現在では医師の回診時に看護師が手指消毒剤を持ち、医師に促す姿も見られるようになり、徐々に遵守率が上昇してきています。本活動は井上君の任期である今年度8月下旬まで行う予定です。終了期間が迫った今、コサマック病院感染症対策委員会が本活動を引きつぐ事ができ、さらに手指消毒剤が今後も確保出来、適切に病棟に分配されるよう院内システムの構築を病院院長、事務長らと共に進めています。

4) 現地での長期ボランティア受け入れ実施

日本人医療者に海外の医療に触れ、現地の医療を体験する機会をつくることを目的とし、2014年8月より、現地にて長期ボランティアの受け入れを開始しました。2014年度は8月に1人目、10月に1人、計2名の日本人看護師をボランティアとして受け入れました。ボランティアさんには1ヶ月の研修を終えた後、主に国立コサマック病院を活動の場とし、コサマック病院での医療提供、リーダーナース候補者の指導などを主体的に行って頂きました。



長期ボランティア看護師 高梨さん（左）と岩村さん（右）

5) 看護学生への指導

国立コサマック病院脳神経外科病棟には毎年200名の看護学生が実習に来ます。しかし、学校、病院双方の教育体制が整っていないため、実習中に指導者となる者がおらず、何も行わずに時間が過ぎる状況も多々見受けられました。また、初めての注射を指導者不在で実施する事も多く、患者さんは何度も針で刺されて苦しんでいる光景をよく目にします。そこで、希望してきた看護学生のみを対象に昨年10月頃より、リーダーナース養成プロジェクト卒業生が中心となって、看護学生への実習指導を開始しました。指導は血圧の測り方、点滴の調整、病院環境整備の方法、床ずれの出来ない姿勢のとらせ方など、看護師の基本であり、実施頻度が高いものを中心に行っています。



看護学生への講義



実技練習

6) 医薬品の寄贈

以下の方々から、物品を寄贈して頂きました。誠にありがとうございました。

根本 泉様よりコサマック病院脳神経外科病棟へベンチ作成のための費用を寄付して頂きました。



リブドゥーコーポレーション様より

- ・ガウン1300枚
 - ・マスク2340枚
 - ・手術室用キャップ1500枚
- をご寄贈して頂きました。



ハクゾウメディカル様より

- ・プラスチックグローブ45箱
- ・プラスチックエプロン20箱
- ・プラスチックエプロン20箱
- ・マスク70箱

をご寄贈して頂きました。



サラヤ株式会社様より

手指消毒剤170Lをご寄贈して頂きました



大洋製薬様より

手指消毒剤 500ml×10本をご寄贈して頂きました。



【成果と課題】

昨年度は過去2年間の活動内容を見直し、得た経験を元に新たな活動に挑戦した年だったと感じています。その一つはリーダーナース養成プロジェクトです。これまでカンボジアの教育活動を行う中でカンボジアの医療者に不足しているのは、やはり考える能力だと感じてきました。知識は持っているけど使えない、問題があるのは分かっているけど解決する方法を考えることができない。日本でもよく言われることですが、カンボジアではずっと低いレベルで同じことが言えます。しっかりとした知識を教えた後、それを使って自分で考える、そして結果を確かめる。これを徹底して行った結果、リーダーナースプロジェクトの卒業生は考える力を身につけることができました。卒業生は当団体のスタッフになり、その能力を発揮し、今では学生・スタッフへの指導にあたっています。また、これまでリハビリの重要性を認知してもらうためにリハビリスタッフが継続して関わってきましたが、昨年度はコサマック病院のスタッフが自分たちでリハビリを提供出来るようシステムを作り、現在、実際に動き出しています。日本人の長期ボランティアスタッフやインターンシップ生の受け入れも開始となりましたが、参加して下さった方々は、システムが整備されない中、よりよいように自分で考え整備していくという、日本では出来ない経験をされていると思います。知識や経験が異なる方々に参加して頂き、これまでの人員では出来ない活動の幅を広げることが出来ました。

今後の課題としては、昨年度開始し効果を出した活動を継続し、更に多くの看護師や学生を養成していくシステムを整備する事です。特にカンボジア人医療者が、直接現地スタッフや学生指導が出来るようになる事で、英語が苦手な医療者に対しても教育を実施する事ができます。特に

看護学生が実習に訪れる国立コサマック病院の職員が直接指導出来るようになる事で、より多くの看護学生が適切な指導を受ける事ができます。学生教育はコサマック病院看護師と共に行う事で、職員による学生指導の介入促しとそれによる指導力の養成、また指導が必要な手技についての適切な実施方法などを学ぶ機会としていきます。

3. Jeremiah's Hope (JH)での手術活動

【病院概要】

Christian Medical Ministry to Cambodia/Jeremiah's Hope (以下、JH) は、カンボジアの医療事情の調査に訪れた2名の医師によって、2000年6月に設立されました。元々は、定期的に医療チームを引き連れてカンボジアを訪れ医療活動を行なう「ミッション型」の活動形態を取っていましたが、2010年3月に、米NGOであるHope World Wideと提携し、プノンペンに外科設備を有した病院を開設しました。病院はHope Center(Hope World Wideが建築した施設)の2階と3階部分に位置しています。診療科目は主に脳神経外科で、外来患者数は月間200～260人ほど。入院患者数と手術数はほぼ同じで、月間60～70人程度です。当NGOと同院とは2011年度から何度も手術協力をおこなうなど、親密な関係を築いております。

【派遣スタッフ】

医師、看護師、理学療法士

【活動内容】

2014年11月に岡田医師により6名の患者さまの診察を実施し、そのうちすぐに手術を実施しなければ近い将来重篤化してしまう脳腫瘍の患者さま3名の手術を実施しました。

カンボジアでは症状が軽い時はなかなか病院を受診しないため、受診する頃には、日本ではあまり見ることがないほど、巨大な腫瘍となっている方を頻繁に目にします。

今回は当団体の看護師やJeremiah's Hope(JH)の看護師達や長期ボランティアの日本人看護師が協力しあい、初めてとは思えない位いいチームワークをみせてくれました。今回は看護師だけでなく、当団体のカンボジア人リハビリスタッフも連携し、術後のリハビリを行いました。



手術風景



リハビリを行う看護師と理学療法士

【成果と課題】

JH看護師の術後管理技術の向上により、手術後もJH看護師による看護が可能となりました。しかしながら、表面的な知識・技術である事が多く、エビデンスに基づいた指導は必要となります。JMDOで育てた看護師との交流などを設定する事で、情報共有や学びとなる支援を行っていきたいと思っています。

4. 医療養成校での教育活動

1) Technical School of Medical Care (TSMC) における理学療法士教育活動

【学校概要】

TSMCはカンボジアで唯一の理学療法学科のある公立のコメディカル養成校で、他に看護・助産、放射線、検査学科があり、かつてはフランス政府、現在はJICAの支援のもと運営されています。理学療法学科の学生は年によってばらつきはあり、各学年25名前後の学生が在籍しています。理学療法学科は3年制で、カリキュラムは、1年生960時間、2年生1125時間、3年生1320時間（内インターンシップ900時間）で、3年間の総時間数が3405時間となっています。しかしこのカリキュラムが全て予定通り履修されているかは明らかではありません。授業はクメール語で行われ、教科書はフランス語をクメール語に教員が翻訳したのを使っています。

【活動の背景と目的】

TSMCの講義では脳卒中などの中枢神経系の講義が少なく、十分な教育がされていなかったため、「脳卒中の理学療法・リハビリを実践できるセラピストを育てる」という点に教育目標を設定し、講義を行いました。前年度と同様、2学年を通じて、講義をおこなう予定でしたが、昨年度からTSMCの外来講師による講義の体制が変更になり（母体である健康保健大学と統一）、昨年度は2年生にのみ講義を行いました。

【期間】

2年生：2014年6月5日（木）、12日（木）の2日間

【内容】

- ・脳機能等の神経系の解剖学、生理学、運動学の授業
- ・脳卒中患者の病態理解

【成果と課題】

TSMCに介入し始めて3年経ちましたが、毎年、学生達が習っている知識が増えている印象を受けています。外国へ留学する医療者が増えている事で外国からの情報が入りやすくなっているためと思われます。TSMCでは今年度から、母体である健康保健大学の外来講師による講義の受け入れ体制を統一し、より体系化された教育カリキュラムの作成にあたるのとすることで、今後、学生たちのレベルはさらに上がると予測されます。現段階では、まだ症例数が少ない事もあつてか、脳卒中のリハビリテーションへの理解は低く、教育は必要と感じました。今後は、カンボジアの教育が抱えるもう一つの問題、卒後教育も視野に入れて活動をしたいと思えます。



TSMCでの講義風景

2) 軍の学校における看護学生への講義

国立コサマック病院が実習先となっている軍の医療者養成校 Health Science Institution of RCAF にて、看護学科、助産学科の1年生計600名に対し、基礎看護学の講義を行いました。看護師としての責務や接遇、食事や病院環境についての考え方等の講義も行いましたが、記録や申し送りの必要性などはゲームなど用いて体験してもらいました。

【成果と課題】

指導した学生が国立コサマック病院での実習にきた際、一度講義を行った事があるため、実習先での指導による導入が他学校の生徒よりもスムーズで、実習中の教育に対する姿勢も積極的でした。実習先では適切な方法やエビデンス等の講義に時間をとって行う事ができないため、学内授業と実習指導をセットで提供できる事はより効果的だと感じています。しかしながらカンボジア国内には私立校合わせると現在11校の看護学校が設立され、それぞれの学校が300名以上の学生を抱えている現状があります。学校教育をセットで行っていくには、各学校との協力体制の構築が必要となり、カリキュラムに組み込んで頂くにはプロセスが必要となります。今後も各校とのコミュニケーションを図り、学生指導への効果的な介入方法について調査していきたいと思っています。

4. スタディーツアー開催

【開催時期】

- 1) 2014年 8月23日～8月28日
- 2) 2015年 3月20日 ※一部受け入れ

【参加者】

- 1) 8名
- 2) 20名 ※三重県立四日市高校生徒

【スケジュール】

- 1)
 - 1日目：移動日
 - 2日目：カンボジアの歴史を知る旅（王宮、キリングフィールド、ジェノサイド博物館など）
 - 3日目：日本着医療機関訪問（国立コサマック病院、JH、Kitahara Japan Clinic、薬局問屋街）
 - 4日目：他州訪問（ルミドゥアル島にて島内見学、子ども達へのしらみとりシャンプー）
⇒夜便に出国
 - 5日目：アンコールワット見学 ⇒夜便にて帰国
 - 6日目：日本着

- 2)

医療環境についての見学の希望があったため、国立コサマック病院とKitahara Japan Clinicの見学を実施しました。また、カンボジアの医療が抱える問題とJMDOがその社会課題に対しどのような活動を行っているのかについて説明をしました。

【報告】

カンボジアの内戦の歴史とその影響を受けた医療の現状、都市部と農村部の生活の違い等を体感してもらうツアー行程としました。ツアー最終行程では、アンコールワット遺跡を訪問し、栄華を誇ったアンコール時代に触れて頂く機会としました。

日々発展していく都市部の状況や経済情勢、しかしそれに比例して成長できない医療の状況を実感して頂けたと思います。また都市部では高級車が走り高層ビルが建つ中、農村部では物々交換のような生活を送っている方もいます。

一側面から出ないカンボジアの状況を感じて頂けるツアーになったと思います。

また、日本の高校生の視察ツアーの医療関係のご案内受入も行いました。将来医療分野に進学を希望している学生もいたため、今後の進路を決める上での良い刺激が出来たと思います。

日本での活動

1. イベント開催

1) カンボジア料理教室 開催

【開催概要】

日時：2014年09月12日 11時～15時

開催場所：文京区 アカデミー湯島 実習室(東京都 文京区 湯島2-28-14)

参加人数：9名

講師を会員でもあるマオ ティアリーさん（医療法人社団KNI看護師）に協力を頂き、料理教室を開催致しました。

「食」を通じて、カンボジアと日本の文化交流の機会の提供を目的として開催致しました。カンボジアの家庭料理を教えていただいた後、参加者の皆さまと一緒にカンボジア料理を食べながら、マオさんより、カンボジアの現状や医療問題などを話してもらいました。



2) 現地活動報告会 開催

【開催概要】

日時：2014年9月27日（土）15:00～17:00

開催場所：北原国際病院会議室

参加人数：約15人

9月に活動報告会を実施しました。現地駐在員の笠原より、現地医療活動の様子をお話させて頂き、また8月のスタディツアーへ参加したインターン生の川上君より、スタディツアーの報告を行いました。



3) グローバルフェスタ 2014 出店

【開催概要】

日時：2014年10月

【報告】

グローバルフェスタは、広く一般の方々に「国際協力」をより身近なものに感じていただくとともに、国際協力の現状・必要性などについての理解と認識を深めて頂くことを目的とし、既に20年以上にわたって実施されております。26年度も国際協力に関係する政府機関、JICA、NGOなど300以上の団体が出店しましたが、生憎の台風のため、2日目は12時に会が閉鎖となりました。それにも関わらず、約80000人が来場したとのことで、例年通り、大盛況の会となりました。

日本医療開発機構も今年度は、ブースにて活動紹介を行いました。主な展示内容は、カンボジアでのリーダーナース育成について、教育内容や研修生の活動に焦点を当て紹介を行いました。

他にもスタディツアーや現地ボランティアの参加についてのご案内を行い、実際に現地の活動にも興味も持っていただけるようお願いを致しました。

ブースに来られたのは、医療従事者や医療関係の仕事をしている方が訪問していただくことが多かったです。また高校生や大学生が課題学習の為にブースを回っているという場面もあり、その授業の際に報告を行うという方もいらっしゃいました。

このように当法人を初めて知っていただくことで、多くの方に知って頂く機会になることはもちろん、事務局スタッフとしてもどういう方に興味を持って頂けるのか知る機会や他団体の方との交流やネットワーキングの機会とも活用できると感じました。

<来場者数>

10月4日(土)/66,450人

10月5日(日)/11,096人 ※荒天の為12時にて終了

合計：77,546人

<出展状況>

出展数 293者、339出展

